

太平経鈔甲部(涵746、葉五表第十行〜葉六表第六行)

【原文】

後聖李君太師姓彭、君學道在李君前、位爲太微左真、人皇時保皇道君、並常命封授兆民、爲李君太師、治在太微北塘宮靈上光臺、二千五百年轉易名字、展轉太虛、周旋八冥、上至無上、下至無下、真官希有得見其光顔者矣。

【訓】

後聖李君の太師、姓彭、君の道を學ぶは李君の前に在り、位は太微左真と爲す、人皇の時、保皇道君たり、並びに命じて兆民を封授さるるに常(當)り、李君の太師と爲り、治は太微北塘宮靈上光臺に在り、二千五百年にして名字を轉易し、太虚を展轉し、八冥を周旋し、上は上無きに至り、下は下無きに至り、真官希に其の光顔を見得る者有り。

【訳】

後聖李君の太師は、姓は彭で、李君より前に道を学び、位は太微左真である。人皇の時、また保皇道君となり、また(天の)命令を受けて人々を与えられたとき、李君の太師となり、その治所は太微北塘宮靈上光台にあった。二千五百年で名と字を改め、太虚に遊び、天下の果てをめぐり、上はそれより上がなく、下はそれより下はないところまで行き、真官がその尊顔を拝することはいまれであった。

【注】

○後聖李君太師姓彭

『上清後聖道君列紀』では、諱広淵、一名玄虚、字大椿、一字正陽とす。また彭は李ともするという。

『上清後聖道君列紀』(涵一九八)「後聖彭君諱廣淵、一名玄虚、字大椿、一字正陽、彭亦爲李、或名彭先李君學道。人皇時生位爲太微左真保皇君、並當受命封校兆民、爲李君太師、治在太微北塘宮靈上光臺。彭君二千五百年輒易名字、展轉太虚、周遊八冥、上至無上、下至無下、真官希有得見其光顔者矣。然起學所履姓字眞定、具列方諸宮白簡青録之篇。後聖李君上相方諸宮青童君。後聖李君上保太丹宮南極元君。後聖李君上傳白山宮太素眞君。後聖李君上宰西城宮總眞王君。右四輔大相、其餘卿司仙公

及大夫官三百六十人、並列白簡青録之篇、不復一一、紀其姓字矣。」（八裏一九表）

○太師

『書』周官「立太師、太傅、太保。」孔伝「師、天子所師法。」

○太微左真

陶弘景『洞玄靈寶真靈位業圖』（涵七三）には上第一中位に太上玉真保皇道君、第二中位・左位に後聖太師太微左真保皇道君あり。

李淳風『太玄金籙金鎖流珠引』（涵六三一―六三六）序「聖又傳後聖太師」註。天師是也」太微左真保皇道君」註。主封校兆人、三天之上九天官主。」（二裏）

○人皇

『初学記』卷九引『春秋緯』、「天皇・地皇・人皇、兄弟九人、分九州、長天下也。」晋・王嘉『拾遺記』春皇庖犧「昔者人皇蛇身九首、肇自開闢。」

○常

『上清後聖道君列紀』は「當」に作る。

○治在太微北塘宮靈上光臺

唐・王懸河『上清道類事相』（涵七六五）卷二「宝台品」、
「後聖道君列紀」云、後聖彭君治在靈上光臺也。」（四表）、
「『太平經』第一百十四云、靈上光臺太師彭廣淵治其中。」（六表）、
「又云、靈上光臺保皇道君居之。」（六表）

○二千五百年轉易名字

『上清後聖道君列紀』は轉を輒に作る。

宋・謝守灝『混元聖紀』（涵五五一―五五三）卷二「按九宮經・三五經・元辰經云、人各有厄會、若易名字、以隨元炁之音、可以延年度厄。今世有道者亦多如此。又列記云、李君二千五百年輒易名字。老君在世最久、故名字稍多。嘗告尹喜曰、吾姓字渺渺、從劫至劫、非可悉紀也。」（三五裏）

○展轉

漢・蔡邕「飲馬長城窟行」、「他鄉各異縣、展轉不相見。」

『後漢書』卷六五段熲伝「熲遂窮追、展轉山谷間、自春及秋無日不戰。」

○太虛

『莊子』知北游篇「是以不過乎崑崙、不遊乎太虛。」成玄英疏「崑崙是高遠之山。太虛是深玄之理。」

『列子』湯問篇「故大小相含無窮極也。含萬物者、亦如含天地。」張湛注「夫含萬物者天地。容天地者太虛也。」

○周旋

周還とも。『漢書』卷二六天文志「熒惑出則有大兵、入則兵散。周還止

息、乃爲其死喪。」

『晋書』卷十一天文志「前儒舊說、天地之體、狀如鳥卵、天包地外、猶殼之裹黃也。周旋無端、其形渾渾然、故曰渾天也。」

○八冥

八溟とも。『元始無量度人上品妙經四注』（涵三八―三九）（嚴東・薛幽棲・李少微・成玄英註、陳景元集註）經文「八冥之内細微之中」「東曰、八冥、八極也。細微、毫芥也。遊於八極之外、毫芥之内者也。○幽棲曰、八冥、八極之表、冥昧不測。故云、八冥也。言此諸神則大无不處、細无不入。或舒布於八冥之中、或貫穿於一毫之末。在人爲道、在物爲生、道性之炁也。」（十九裏）

唐・杜甫「客居」、「安得覆八溟、爲君洗乾坤。」

『雲笈七籤』（涵六七七七〇―二）卷二三求月中丹光夫人法「瀾池玉潤、流麗八溟。」（十四裏）

○真官

『太平經鈔』卷一「聖君明輔、靈官祐人、自得不死、永爲種民。升爲仙真之官、遂登後聖之位矣。」

【原文】

後聖李君上相方諸宮青童君。

後聖李君上保太丹宮南極元君。

後聖李君上傳白山宮太素真君。

後聖李君上宰西城宮總真王君。

【訓】

後聖李君が上相 方諸宮青童君なり。

後聖李君が上保 太丹宮南極元君なり。

後聖李君が上傳 白山宮太素真君なり。

後聖李君が上宰 西城宮總真王君なり。

【訳】

後聖李君の上相は方諸宮の青童君である。

後聖李君の上保は太丹宮の南極元君である。

後聖李君の上傳は白山宮の太素真君である。

後聖李君の上宰は西城宮の總真王君である。

【注】

○上相

『書』咸有一德「伊尹 既復政厥闢」唐・孔穎達疏「伊尹、湯之上相、位為三公。」

○上宰

晉・棗據「雜詩」、「吳寇未殄滅、亂象侵邊疆、天子命上宰、作藩於漢陽。」

○上相…上保…上傳…上宰…

陶弘景『洞玄靈寶真靈位業圖』（涵七三）、第二中位・左位に「左輔後聖上宰西域西極真人總真君」姓王、諱遠、字方平。紫陽君弟子、司命茅君師。」（三表）、「東海王青華小童君」（三裏）、女真位に「後聖上保南極元君紫元夫人／後聖上傳太素元君」（五裏）あり。

『無上秘要』（涵七六八―七七九）卷二十二「方諸宮 青元府 右高晨師王青童君所居」（四裏）「丹闕黃房 雲景闕 琳霄室 那拂臺 右在方諸東華山、青童君所居。太丹宮 右在勃陽丹海長離山、上保南極元君所居。白山宮 右在白水沙洲中山、上傳太素真君所居。總真宮 右在西城山、上宰王君所居。」（十二裏―十三表）

李淳風『太玄金籙金鎖流珠引』序「後聖又傳九微太真玉闕上相大司命高晨師東海玉明青華小童道君」註。主教知真而得真者。有志修之人、得正度傳法、爲上真仙都玉京金闕後聖玉皇帝君下仙之臣」。後聖君又傳後聖上保「註。君封此位」司南極太丹元君紫元夫人「註。主教當爲真人者、便授太丹之經、流珠之訣」。……君又傳白山太素真君「註。令同王下教真道也」。後聖君又傳後聖上宰「註。仙家上宰、臣總真之位、如世上尚書宰相之位」西極總真王君「註。主教成真者、便行教修金鎖流珠金經金籙之道、多有拔宅上昇、家口俱去者至多也」。」（二裏―三裏）

○方諸

陶弘景『真誥』（涵六三七―六四〇）卷九協昌期一「東海青童君常以丁卯日登方諸東華臺四望、子以此日常可向日再拜、日出行之、可因此以服日精。」「又掾寫」（十五裏）、「方諸正四方、故謂之方諸、一面長一千三百里、四面合五千二百里、上高九千丈、有長明太山夜月高丘、各周迴四百里、小小山川如此間耳、但草木多茂蔚、而華實多蒨粲、饒不死草、甘泉水所在有之、飲食者不死、青君宮在東華山上、方二百里中、盡天仙上真宮室也、金玉瓊瑤、雜爲棟宇、又有玄寒山、山上別爲外宮、宮室周二百里中、方諸東西面又各有小方諸、去大方諸三千里、小方諸亦方、面各三百里、周迴一千二百里、亦各別有青君宮室、又特多中仙人及靈鳥靈獸輩、大方諸對會稽之東南、小看去會稽岸七萬里、東北看則有湯谷建木鄉、又去方諸六萬里。……大方諸宮、青君常治處也、其上人皆天真高仙、太極公卿諸司命所在也、有服日月芒法、……」（二〇裏―二二裏）

【原文】

右五人、一師四輔、輔者、父也、扶也。尊之如父、持之得行、總號爲輔。分而別之、左輔右弼、前疑後承。承者、發言舉事、拾遺充足、制斷宣揚、即是宰也。疑者、向思未得、啓發成明、即是傳也。弼者必定猶豫、即是保也。扶君順師、周市入道、即是相也。四五占候、俱詳可否、贊弘正化、總曰輔師。

【訓】

右の五人、一師四輔なり、輔は、父なり、扶なり。之を尊すること父の如く、之を持って行くを得れば、總じて號して輔と爲す。分けて之を別ければ、左輔右弼、前疑後承なり。承は、言を發し事を舉せば、遺を拾ひて充足し、制斷して宣揚す、即ち是れ宰なり。疑は、向に思ひて未だ得ざれば、啓發して明を成す、即ち是れ傳なり。弼は必ず猶豫を定む、即ち是れ保なり。君を扶け師に順ひ、周市入道せしむ、即ち是れ相なり。四五占候し、俱に可否を詳らかにし、正化を贊弘す、總じて輔師と曰ふ。

【訳】

右の五人は、一人の太師と四人の輔佐である。輔とは父であり、助けるということである。彼を父のように尊崇し、彼を手助けしてものごとを進めていくことができるので、あわせてこれらを輔佐と呼ぶ。それらを区別すれば左輔・右弼・前疑・後承となる。(後)承とは、発言やなした物事に漏れ落ちたことがあるればそれを拾い上げて補充し、決定し教化を推し広める。これがすなわち上宰である。(前)疑とは、ずっと考えてもよい考えが思いつかない場合、迷いを啓いて物事をはつきりさせる。これがすなわち上傅である。(右)弼とはなながあつてもためらいを取り除く。これがすなわち上保である。(左)輔とは)君主を補佐し太師に順い、ことごとく入道させる。これがすなわち上相である。あれこれそのあり様を観測して、みな是非について熟知し、正しい教化を補翼して推し広める。それゆえこれらをまとめて輔師というのである。

【注】

○四輔

賈誼『新書』卷五保傳篇「明堂之位曰、『篤仁而好學、多聞而道順。天子疑則問、應而不窮者謂之道。道者、道天子以道者也、常立於前、是周公也。誠立而敦斷、輔善而相義者謂之輔。輔者、輔天子之意者也、常立於左、是太公也。潔廉而切直、匡過而諫邪者謂之拂。拂者、拂天子之過

者也、常立於右、是召公也。博聞彊記、捷給而善對者謂之承。承者、承天子之遺忘者也、常立於後、是史佚也。故成王中立聽朝、則四聖維之、是以慮無失計而舉無過事。』殷周之所以長久者、其輔翼天子有此具也。』

『史記』卷二夏本紀「敬四輔臣。」集解「『尚書大傳』曰、古者天子必有四鄰、前曰疑、後曰丞、左曰輔、右曰弼。」

『孔叢子』論書「王者前有疑、後有丞、左有輔、右有弼、謂之四近。」

『太平經鈔』卷一「閑居之時、前向有疑、問之傅。後顧慮遺、問之承。右有所昧、問之弼。左有未明、問之輔。諮詢四輔、相保傅宰、成功在師、不可闕也。」

○制斷

『韓非子』人主篇「主有術士、則大臣不得制斷、近習不敢賣重。」

『淮南子』主術「是故非澹薄無以明德、非寧靜無以致遠、非寬大無以兼覆、非慈厚無以懷眾、非平正無以制斷。」

○宣揚

『漢書』卷八一匡衡傳「臣衡材駑、無以輔相善義、宣揚德音。」

『尚書』序、孔穎達疏「『蓋取諸夬』、『夬』者、決也、言文籍所以決斷、宣揚王政、是以夬。」

○啓發

『論語』述而篇「子曰、不憤不啓、不悱不發。」

○猶預

『史記』卷八三魯仲連鄒陽列傳「平原君猶預未有所決。」

○周市

唐・韓愈「元和聖德詩」、「哀憐陣歿、廩給孤寡、贈官封墓、周匝宏溥。」

○四五

四つ五つ、諸事あれこれぐらいの意か。待考。『書』牧誓篇「愆于四伐五伐、六伐七伐、乃止齊焉。」孔伝「伐謂擊刺、少則四五、多則六七以為例。」

阮籍「詠懷詩」、「仙者四五人、逍遙晏蘭房。」

○占候

『漢書』卷三十下、郎顛伝「能望氣占候吉凶。」

○贊弘

『北齊書』卷六孝昭帝「股肱輔弼、雖懷厥誠、既不能贊弘道德、和睦親懿、又不能遠慮防身、深謀衛主、應斷不斷、自取其咎。」

○正化

漢・鍾離意「答府記」、「明正化之本、由近及遠。」

唐・吉藏『無量壽經義疏』（大正藏三七）卷一「宣流正化者示汝等所行是菩薩道、其善無遍、故云正化。」

『元始無量度人上品妙經四注』（嚴東・薛幽棲・李少微・成玄英註、陳景元集註）經文「諸天炁蕩蕩、我道日興隆」○幽棲曰既束勒妖魔之精、斬馘六峯之鬼、故得諸天真炁坦蕩、而我道正化興弘也。」（二九裏）